中西 創（なかにし はじめ）健康スポーツ社会学科 2 年

「無いなら自分で創ればいい：トライアスロン部の創設」

これまで自分は、水泳やサッカーで体を鍛えてきた。自転車での琵琶湖 1 周も行った。しかし、現状に満足するのではなく、自分の限界に挑戦したい。そこで、トライアスロンという新たなスポーツに挑戦している。大学内にはトライアスロン部は無かったので、自分で創ることにした。現在は 6 名の仲間と共に、鴨川の河川敷や近隣施設で、自主的なトレーニングを行っている。この活動を公式なトライアスロン部へと発展させていきたい。

1 年生には、自分の好きな歌から、「誰の真似もすんな、君は君でいい」というメッセージを伝えたい。自分の好きなこと、やりたいことに正直に向き合ってほしい。自己開示を恐れず、自分をさらけ出そう。自分からアクションしよう。他者の評価を気にせず、本当にやりたいことに挑戦してほしい。

原田 廉也（はらだ れんや）現代社会学科 2 年

「“身近な問題意識”から始まるアクション:『商店街ライブ』による地域での価値創出」

京都府の商店街を舞台とした音楽ライブのイベントをプロデュースしている。（1）商店街の人びと、（2）ミュージシャン、（3）オーガナイザー（自分たち）という 3 者が協力して活動しており、2017 年の 5 月からすでに 9 回のライブを実施している。

商店街ライブは、大きく 3 種類の価値を創出している。1 つは、商店街を中心とした人びとのネットワーキング促進である。商店を営む人びとや、近隣住民、大学生、出演するミュージシャンといった人びとが、商店街ライブをきっかけに同じ場所に集うため、世代や所属大学といった既存の枠を超えたつながりが生まれている。

2 つ目は、商店街における消費の向上である。イベント当日には、多くの人びとが商店街を訪れるため、飲食店の利用等、商店街における消費が促進されている。

3 つ目は、音楽をやりたいミュージシャンに、その舞台を提供していることである。ライブハウスを借り切ってイベントを開催するためには、高額の費用が必要であり、そのことが、ミュージシャンたちが「やりたいこと」をやるための大きなハードルとなっていた。商店街ライブは、そのようなミュージシャンたちに、人前で音楽を披露する機会を無償で提供している。商店街ライブは、商店街の人的・経済的活性化に加えて、ミュージシャンの「やりたい」を支援している。

1 年生には、「自分が楽しめること」と「誰かが喜んでくれること」の重なり合う部分で、何かできないか考えてみてほしい。自分の場合は、それが商店街ライブだった。既存の団体に入って活動するのも良いが、自分たちで始めてしまうのも OK である。とりあえず、始めてしまおう。